

授業科目 臨床神経学

【担当教員名】 今村 徹		対象学年	2	対象学科	理学・作業・言語・義肢
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎				○
【概要・一般目標：G10】 本科目は前期に開講した『神経科学』を引き継ぐ科目である。前期の学習内容をもとに神経疾患の学習を進める。臨床現場では、神経科学の知識に基く論理的な病態理解とともに、患者の臨床像を症候群として把握する能力も重要である。後者の学習のために、病態生理学、疾患各論と症候学、診察検査法等をできるだけ関連させて授業を進める。					
【学習目標・行動目標：SBO】 代表的な神経疾患について、神経科学の知識に基く論理的な病態理解と、臨床像の症候群的理解の両者を身に付けることが目的である。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	臨床症候群という考え方				担当教員：今村 徹 ・すべての授業を講義形式で行う ・以下の資料を学内LAN経由で学生に あらかじめ配布する 1) 講義資料のPowerPointファイル 2) 過去の定期試験問題とその解説
2	大脳基底核疾患				
3	筋疾患				
4	神経筋接合部疾患、末梢神経疾患				
5	神経根・脊髄疾患				
6	脳幹・脳神経疾患（1）				
7	脳幹・脳神経疾患（2）				
8	脳幹・脳神経疾患（3）				
9	小脳疾患				
10	意識、覚醒、注意とその障害				
11	記憶障害				
12	その他の認知機能障害				
13	認知症				
14	トピックス				
15	まとめ				
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		簡要神経学（第4版）	岩田誠、岩田淳訳	MEDSI	2006・3,800円＋税
参考書					
その他の資料		（学習方法の欄に記したとおり）			
【評価方法】 定期試験のみで評価する			【履修上の留意点】 脳血管障害など『神経科学』で扱った疾患の一部は、授業の主題には含まないが、定期試験の出題範囲には含める。		